

## 金曜の会報告

- 1 期日 2月28日
- 2 参加者 O、MO、CH、HA、AK、YO
- 3 内容  
『サボテンの花』教材解釈 MO  
『初雪のふる日』授業映像 AK

MOさんをお招きして、新教材の解釈をしました。東京書籍国語6年の4月教材『サボテンの花』です。まず、3段階『たたかいながら』から8段階『助け合う』と、生きることの意味が変化していること。そして、これが1段階『何か一つの意志のように、そこに立っていた』から9段階『さりげなく立っている』の変化の原因となっていること。たたかいながらいきがって生きていては花など咲かない。サボテンが、助け合いながらさりげなく立つように生き方を変えたことで、花が咲いた。助け合うは、ここではサボテンが自らの水で旅人の命を救い、自身も砂漠のほんのかすかな水によって命を救われた。そして、そのほんのかすかな水によってさりげなく立つサボテンだからこそ、おどろくほど美しい花が咲いた。このように、解釈を進めました。解釈をする上で大切なことは、仮説を立ててみることです。そして、他の言葉との整合性を考えるのです。また、解釈半ばにして分かったような気になるのではなく、そこから更に突っ込んで考え、問題を作っていくことが大切だということを確認しました。

授業映像から、教師が解釈の方向に子どもを誘導するのではなく、あくまでも子どもに気づかせ見つけさせることが大切だと分かりました。また、特定の子どものやり取りに終始するのではなく、周りの子どもたちを巻き込む努力をする必要性も感じられました。(YO)